



北海道医報購読料年間3,000円。北海道医師
会員にあっては会費の中に含まれています。

技術料

情報広報副部長 宮本 慎一

現在の診療報酬制度のもとでは、医師の経験年数を考慮した医療技術レベルは診療報酬に加味されないために、臨床経験によって診療報酬の点数に差をつけたほうがよい、との話は以前からあります。それぞれの方がそれぞれの立場から意見を述べられており、いずれの意見ももっともなことだと思います。手術にしても経験を積んだ外科医の診療報酬の方が高くて当然、ということは理屈としても感情としても分からなくはありません。しかし問題はそう簡単ではありません。例えば、そけいヘルニアの手術を数多くこなして神業的技術を持ってはいるが、胃癌の手術経験は非常に少ない、という医師がいたとしたら、胃癌の手術をしたときの診療報酬はどうしたらよいのか、という問題が起きてきます。



ところで、4月の医療費の改定のたびに、「医科診療報酬点数表」と「医科点数表の解釈」を購入します。以前はパラパラと一通り読み通すのに、さほどの苦痛は感じませんでした。年々歳々その厚みは増し、平成14年4月版の「医科点数表の解釈」は1,356ページ、厚さはじつに4cmもあります。この厚さになってしまうと、これをざっと読み通すというわけにはいかず、大西巨人の「神聖喜劇」全巻を読み通すことよりも厄介です。大

都市の電話帳はよく枕の代わりになる、というくらいの厚さですが、この「医科点数表の解釈」も昼寝をするときに十分使えそうな厚さになりました。

この「医科診療報酬点数表」には、基本診療料の「一人の患者について療養の給付に要する費用は、……規定に基づき算定された点数の総計に10円を乗じて得た額とする」、から始まって事細かに医療にかかわる技術料が記載されています。ところが、「何もしないで経過を見る」、という技術についてはどこにも何も書いてありません。



現在は医療費の自己負担額が増えたので以前ほどではありませんが、医療機関を受診した患者はえてして、薬の処方や注射を希望する人が多いことは多くの医師が経験していることでしょう。病院勤務の当直のときに、診察の結果、薬も出さず、注射もしないで帰宅させようとする、「藪ではないのか、この医者は」というような顔をされたことを何度か経験しました。しかし、診察、検査の結果から「何もしないでももう少し様子を見ましょう」、ということをして患者や家族に納得させることは結構疲れる作業です。ところが、この「何もしないでももう少し様子を見ましょう」と、患者あるいは家族に言えることはやはり経験に裏打ちされた立派な医療技術のひとつだと思います。

「医科点数表の解釈」の「基本診療料」の項には、基本診療料は、簡単な検査の費用、簡単な処置の費用等を含む、と書いてあります。しかし、「何もしないでももう少し様子を見ましょう」と言えることは簡単な技術ではありません。診療報酬として、この経過観察という医療技術を評価してもらうことはできないのでしょうか。ただ、「知識不足による、無知の経過観察」との区別が問題になりますが。